

母子の歯のケア

妊娠すると女性ホルモンの影響で、歯周病にかかりやすく、そのまま放置しておくとも早産になったり、低体重児出産の可能性が高くなるという報告もあります。また、つわりで歯磨きを怠りがちになり、歯肉炎や虫歯になりやすくなります。

よく、『妊娠したら、歯の治療をしないといけない』と思いついて入っている人がいますが、基本的に妊娠中に行うべきでない歯の治療は、ほとんどありません。気をつけるポイントは歯科医師が指示しますが、どうしても気になるようであれば、安定期以降に受診するといいでしょう。歯科医師としては、治療を受けるのを我慢して虫歯や歯周病が悪化し、その痛みで母親のストレスがたまって、胎児に影響を与えることの方が心配です。

乳歯の治療はなぜ必要なの？

乳歯の虫歯は進行が早いので、早めに治療する事が必要です。

どうせ生え替わるからと乳歯の虫歯を放置しておく、口の中の虫歯菌が増えて、永久歯の虫歯の原因に。また虫歯が悪化して早い時期に抜けてしまうと、永久歯が正しい位置に生えることが出来ず、歯並が変わってしまいます。

乳歯は永久歯が正しく生えるために役立つだけでなく、顔の形を整え、発音を助ける役割も。乳歯の虫歯は表面のエナメル質が十分に強化されていないので見つけてからではかなり進行している場合があり、治療に時間がかかるので、定期的に健診を受けるようにしましょう。

(歯と口の健康づくり基本120より)

例えば、自分で歯が健康だと思っても、妊娠前期と後期、最低でも2回は歯の健診に訪れましょう。

そして、産後は子供の歯が生え始めてから、半年に一度を目安に健診すると、いろいろ相談しながら予防や治療を進める事が出来ます。特に乳歯の虫歯は進行が早い為『もつと、早く気づいていれば、治療できたのに・・・』と、私自身、残念に思うケースが少なくありません。子供の歯の状態を日々、観察できるのは親だけです。8〜9歳までは仕上げ磨きをしながら、子供の歯に異常ないかどうかを見てあげることが、とても重要です。

自宅でのケアはもちろん、私たちプロとの二人三脚で、子供の歯の健康を守っていきましょう。

河野有里(ライオン歯科衛生研究所歯科医師)



(牛久市歯科医師会よりお知らせ！)

牛久市およびその周辺地域の歯科衛生士の皆さん、牛久市歯科医師会衛生士バンクをご存知ですか？

詳しくは牛久市歯科医師会ホームページをご覧ください。

<http://www.ushiku-dental.com/>



- 1、いつでもどこでも、歯ブラシを持ち歩くべし。
- 1、食べた後すみやかに、歯をみがくべし。
- 1、正しいみがきかたは、歯医者と教わるべし。
- 1、歯の定期的な健診で、災いを未然に防ぐべし。
- 1、歯は、一生の友と心得るべし。